

## 小学校第5学年 学級活動学習指導案

### 1 題材名 「ちょっとまってそのメール出していいの！」

### 2 題材設定の理由

#### ○ 題材について

インターネットや携帯電話の急激な普及に伴って、児童・生徒が事件を起こしたり、事件に巻き込まれたりする事例が増加してきた。チェーンメールもその事例の1つである。うわさが広がるのは早いと言われるが、インターネットや携帯電話のメール機能を使えば、伝播力はその比ではない。チェーンメールは、不幸系・幸福系・芸能系・善意系などに分類することができる。しかしながら、ほとんどは偽情報であることが多い。不幸系は、いたずらに恐怖心をあおり、幸福系や善意系であったとしても偽情報であれば、不特定多数の人に迷惑をかけるだけでなく、インターネットのトラフィック（流通する情報量）を増大させ、ひいてはサーバーをダウンさせることにもなりかねない。情報ツールを使ったコミュニケーションでは、匿名性が高いことから、安易に情報を発信してしまいがちである。情報の真偽を判断し、偽りの情報を流さない態度の育成は非常に重要である。

そこで、チェーンメールを題材にして情報モラルを問われる場面を設定し、情報の真偽を判断し、相手の立場に立ったコミュニケーションの大切さを理解させることをねらって主題を設定した。

#### ○ 児童の実態について

本学級の児童は、5年生当初、コミュニケーションをうまく取れないために口論となったり、喧嘩になったりする場面が見られた。1学期に比べて落ち着いてきたものの、自分の気持ちをうまく伝えられないために、友達とトラブルを起こす児童が数名いる。コンピュータに対する技能は、ほとんどの児童が、ローマ字入力はあるが、文字を打つスピードは個人差が大きい。メールのやり取りを経験したことがある児童は、約半数である。

情報モラルの事前アンケートによると、80%以上の家庭にコンピュータがあると答え、その内半数以上がインターネットに接続できる環境にある。携帯電話の保持率は、自分用・家族と共用を合わせると全体の15%であった。いろいろな情報ツールの家庭での保持率・使用率は、今後はますます増加することが予想される。さらに、チェーンメールに対するアンケートの結果をしてみると、不幸系のメールに対しては、ほとんどの児童が、「無視する」「ほかの人に相談する」と答えている。これに対し、幸福系のメールでは、23%の児童が、「メールを送る」と回答していた。

#### ○ 指導について

本時の指導に当たっては、総合的な学習の時間に事前にハイパーキューブねっと Jr を使用してメールのやり取りを体験させておく。その際、クラスの半数の児童が未体験であるため、掲示板を使用し、児童全体の様子を見ながら活動を進めていくようにする。内容に不適切な表現がある場合は、その場で指導する。

導入では、メールのやり取りの体験を想起させながら、楽しかったことや便利な道具（情報ツール）であることをとらえさせる。その後、プレゼンテーションを用い不幸系・芸能系・善意系のメールを回すか回さないかを判断させる。そして、チェーンメールの問題点をグループで話し合わせ、全体で討議していく。その後、チェーンメールの見分け方を知らせ、チェーンメールは、勇気を持って止める態度を高めていく。終末では、メール・カウンセリングの事例を紹介し、相手の立場に立ったコミュニケーションの大切さを考えさせる。

### 3 指導計画

- ・ハイパーキューブねっと J r を用いたメール送受信の体験活動・・・1 時間
- ・チェーンメールについての話し合い・・・・・・・・・・・・・・・・・・1 時間（本時）

### 4 本時の指導

#### (1) 本時のねらい

- ・チェーンメールの問題点に気づき，回ってきても自分で止める判断力と態度を養う。
- ・相手の立場に立ったコミュニケーションの大切さを理解させる。

#### (2) 指導の過程

##### ① 事前の活動と指導

活動の内容	指導・援助の留意点
○メールの送受信 <メールを書くときのマナー> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読みやすいメールを書く。</li> <li>・あいまいな言葉は使わない。</li> <li>・送信する前に，受け取る人の気持ちになって読み直す。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑似体験を行うので，ハイパーキューブねっと J r を使用する。</li> <li>・未経験者が半数いるので，掲示板を使用し，全体を把握しながら指導する。</li> <li>・メールのやり取りを楽しませる。</li> <li>・文字入力の困難な児童には，ソフトキーボードを勧める。</li> <li>・メールの中で，不適切な表現がある場合は，その場でマナーを指導する。</li> </ul>

##### ② 本時の活動

##### ③ 事後の指導と児童の活動

活動の内容	指導・援助の留意点
○メールについてのアンケートをとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後，家庭でメール機能を使った児童には，マナーを守ることができたかどうかを考えさせる。</li> <li>・具体的なチェーンメールを設定し，回すか回さないか判断させる。その際，判断した理由を問うようにする。</li> <li>・机間指導の中で，チェーンメールを出すようにした児童をチェックし，事後に個別にその理由を聞き，指導をする。</li> </ul>

5 本時の展開

■：評価

過程	活動の内容	指導・援助の留意点
活動の開始	1 前時のメールのやり取りの経験を想起させ、本時のめあてを確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">「ちょっとまって、そのメール出しているの！」送信する前に考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メール機能のよさを確認する。また、体験の中で相手に不快な思いをさせたメールを想起させ、メールの書き方を確認し本時のめあてにつなげる。</li> </ul>
活動の展開	2 不幸系のメールを見て話し合う。  3 芸能系のメールを見て話し合う。  4 チェーンメールを回してしまったらどんなことが起こるか話し合う。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                         &lt;チェックリスト&gt;                          ① ほかに人に転送することが書いてある。                          ② 「ウイルス情報です。」のようにうそを書いてある。                          ③ テレビの人気番組の企画だとうそをついている。                          ④ 「出さないと不幸になる。」というような書き方をしている。                     </div> 5 チェーンメール（幸福形・善意系）に関するクイズをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分だったら、届いたメールを次の人に回すか、回さないか判断させ、その理由も考えさせる。</li> <li>問題点と改善策をグループで話し合った後、全体で話し合うようにする。</li> <li>プレゼンテーションを使用し、すごい速さで、メールが増殖したり、サーバーがダウンしたりすることを理解させる。</li> <li>チェーンメールかどうかのチェック項目を指導する。</li> <li>たとえば、幸福系・善意系であっても、チェックリストを参考にし、チェーンメールであれば、送信してはいけないことを理解させる。</li> <li>■ チェーンメールの問題点に気づき、回ってきても自分のところで止める判断力と態度を養うことができたか。</li> </ul>
活動のまとめ	6 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>メール・カウンセリングの話をし、メールの使い方次第で、たくさんの人の役に立つことを知らせ、マナーを守ってメールを書くことへの意欲付けとする。</li> <li>マナーの確認をし、相手の立場に立ったコミュニケーションの大切さを押さえ、日ごろの生活に生かすようにさせる。</li> <li>■ 相手の立場に立ったコミュニケーションの大切さを理解し、生活の中で生かすように意欲を高めることができたか。</li> </ul>